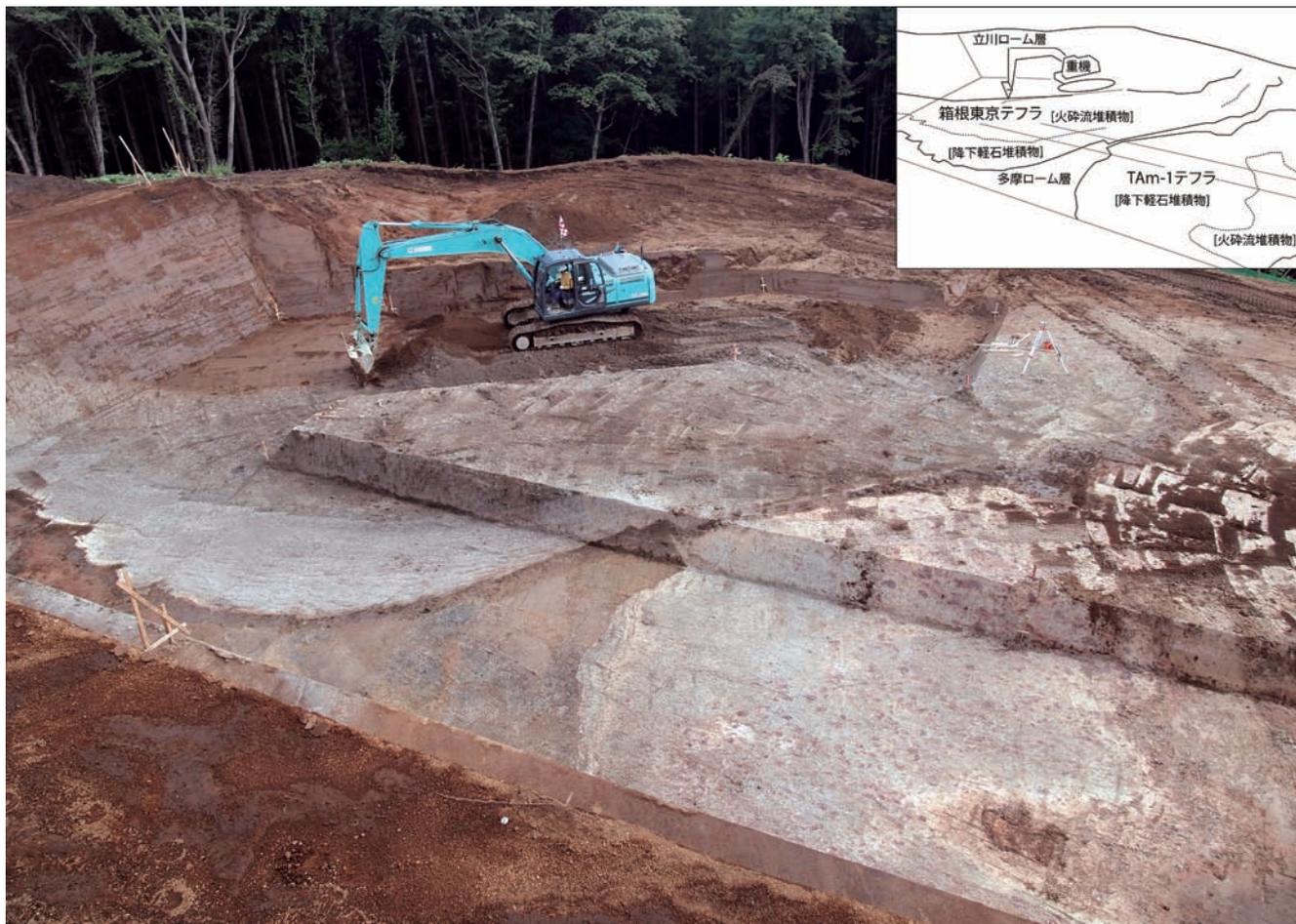


自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 20, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Dec., 2014



箱根火山最大級の 噴火の痕跡

2013年9月7日

神奈川県足柄上郡大井町山田
大井町メガソーラー（きらめきの丘
おい）工事現場にて

協力：大井町・大井町教育委
員会、株式会社古川

かさまともひろ
笠間友博（学芸員）

箱根火山の活動は約40万年前に始まり、おびただしい数の噴火を繰り返して現在に至っています。その中でも最大級の噴火によってもたらされた火山灰層が2つ、工事によって出現しました。堆積構造が複雑なので解説図を見てください。

箱根東京テフラは約7万年前、TAm-1(Tu-1)テフラは約18万年前の噴出物です。いずれも軽石を降らせる噴火から火砕流を流す噴火へと噴火様式の変化が見られ、箱根東京テフラは画面奥側に傾き、TAm-1テフラは画面右

側に傾いています。箱根東京テフラはTAm-1テフラやその下位の多摩ローム層を不整合関係で覆っていて、TAm-1テフラと多摩ローム層との間にも不整合があります。各堆積物の境界はさらに小さな断層のため細かくずれています。箱根東京テフラの降下軽石堆積物の基底には、堆積時の谷地形が保存されていて、火砕流堆積物はその谷地形を埋めるように堆積しています。TAm-1テフラの降下軽石堆積物中の赤い斑は、粗粒な軽石で、人頭大のものがいくつも含まれます。